令和７年度　ＪＲ加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道
「列車内鉄道絵画展」審査会講評

(1)　応募作品全体について

会場を埋め尽くすほどの作品を見てまず感じたことは、全ての作品に一生懸命取り組んだであろうことが感じられたことです。いい加減に描いた作品など１枚もありませんでした。それはすごいことだと思います。

もう一つ感じたことがあります。それは、普通は園児から小学校低学年そして中学年、さらに高学年と年齢が上がるにつれて表現も発達していくのが当然なのですが、今年は特に低学年の絵も高学年のそれもあまり差を感じませんでした。

近年の温暖化で夏の猛暑は厳しく、現場で長時間絵を描くことなどできるものではありません。特に今年の猛暑はこれまで以上の厳しさでした。ですから写真に頼って絵を描くのは仕方のないことだと思います。ただ、写真は２次元の世界となり、それを見て描くのは表現しやすくなるのでしょう。そのため、低学年でも立体的な表現が目立つようになってきました。

背伸びする必要はないのです。その学年らしい表現が今後もっと出てくることを期待したいと思います。

(2)　大賞作品について

日本へそ公園駅を描きました。手前の橋の上から見た情景です。普段あまり見ることのない角度からの列車の構成が新鮮でした。俯瞰した風景に奥行きと空気感を感じる作品に仕上がりました。まとまりのある落ち着いた色調も美しいと思います。

大　賞

「日本のへその宝物」

岩崎（いわさき）　芽衣（めい）

（西脇市立重春小学校　６年）